



## 収穫真っ最中ですが、来年のための作業も行いましょう！

【指導員】 果樹課 大和屋 尚享

リンゴやブドウでは早生種の収穫が始まりましたが、同時進行で来年度のための作業も行い必要があります。今回は秋肥の施用と、苗木の管理について紹介します。

### 【秋肥について】

秋肥は、来年への貯蔵養分の蓄積を高めることが目的となります。速やかな吸収をはかるため、施肥はできるだけ雨の前に行いましょう。秋肥は適期に行うことが大切で、早すぎると着色に影響し、遅すぎると樹体が吸収できず、肥料成分が雪で流れてしまいます。

・リンゴでは10aあたりチツソ成分で2〜3kgを目安に施肥し、早生種では9月上旬に、中生種では9月下旬に、晩生種では10月上旬に行いましょう。

・ブドウでは、年間施肥量の6〜8割を9月中下旬に施肥

します。中粒種ではチツソ成分で10aあたり8kgを、大粒種では4〜5kgを目安に施肥しましょう。

いずれも、施肥量は樹勢の強弱で調整してください。樹勢が強すぎる場合は、施肥しなくても構いません。

(施肥量は県基準によります。成木での基準ですので、若木の場合は施肥量を減らしましょう)

### 【苗木の秋植えについて】

この秋に補改植を行う方がいると思います。春植えに比べ、活着が良いなどのメリットがありますが、デメリットもあります。

秋植えの際、注意しなければ

ばならないのは、ネズミ被害と凍害です。ネズミについては幹にプロテクター(写真)を巻いたり、根にも金網を巻いたりして被害対策をしましょう。加えて、忌避剤を使用するとより効果的です。(アレス水和剤やキヒゲン等) また冬期間、ネズミ被害防止を目的として幹に肥料袋を巻く方が多いですが、春先、雪解けして外せるようになってから早めに外すようにしてください。肥料袋を巻いたままにしておくと、晴れた日には



▲ (写真) 苗木チュープロテクター

巻いた所が暖まるため、樹の耐寒性が低下します。その後急激に冷えた際に凍ってしまい、凍害の原因になってしまいます。

この秋に苗木を購入し、来春に植付け予定の場合、苗木は屋外ではなく、温度変化の少ない屋内で山砂やモミガラ資材を入れた箱に仮植するか、冷蔵庫内で保管するようにしてください。ただし定期的にかん水し、根部を乾燥させないよう注意しましょう。



収穫作業が始まり、これから最盛期を迎えていくことと思います。体調管理には十分注意しながら作業を行っていただきますよう、よろしくお願いたします。